

大学名	佐賀大学	学問分野	学際、複合、新領域
専攻等名	海洋エネルギー研究センター		
拠点のプログラム名称	海洋エネルギーの先導的利用科学技術の構築		
拠点リーダー氏名	門出 政則	所属部局・職	海洋エネルギー研究センター・センター長
プログラムの概要	佐賀大学海洋エネルギー研究センターを拠点とし、海洋エネルギーの複合的高度利用技術とその利用に伴う海洋環境保全技術に関する先導的利用科学技術の構築を目指し、全学的に大学院、学部及び他の研究センターとの連携を強化しながら学際的な研究教育を推進することにより海洋エネルギーに関する国際的な中核的研究拠点の形成を行う。		
拠点形成の目的・必要性	<p><拠点の目的></p> <p>21世紀の世界的な緊急課題であるエネルギーと環境問題の解決に寄与することを目的とし、海洋エネルギーの複合的高度利用技術とその利用に伴う海洋環境保全技術に関する先導的利用科学技術の構築を行う。さらに、これらの利用における法学的・社会学的問題に関する研究とも有機的に連携を図りながら海洋エネルギー利用における学際的研究を推進する拠点を形成する。</p> <p><拠点の必要性></p> <p>エネルギー及び環境問題を解決する有効な方法の一つとして海洋エネルギーが期待されている。海洋エネルギーに関する研究教育は、工学系のみならず幅広い自然科学及び人文社会学の分野が必要であり、これらを融合し学際的研究を推進するためには中核的研究拠点が不可欠である。</p> <p>総合科学技術会議においてエネルギー分野における重点分野のひとつとして「海洋エネルギー利用技術の研究開発」の推進が掲げられ、その中核的拠点として佐賀大学海洋エネルギー研究センターが位置づけられている。本会議で計画されている計画を確実に遂行するための、国際的な中核的研究教育拠点形成が必要である。特に、これらの遂行に際して本分野における世界トップレベルの研究施設として拡充される新研究センターがその目的を戦略的及び機動的に運営されるためには、国際的な研究拠点として形成されなければならない。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>佐賀大学海洋エネルギー研究センターを中心に、大学院工学系研究科及び大学院連合農学研究科をはじめ経済学部、文化教育学部など他の部局と連携を図りながら拠点形成を推進する。拠点形成に当たっては、当センターを中心に関連部局及び外部委員によって構成される「研究推進支援委員会(仮称)」を設置し、学内の連携体制を強化拡充しながら海洋エネルギー研究センター・センター長の強力なリーダーシップのもと機動的運営を行う。</p> <p>他の部局との拠点形成における主な役割及び機能は次のとおりである。</p> <p><海洋エネルギー研究センター>：本部機能、海洋エネルギーの総合的複合的研究の推進。特に、海洋温度差発電の主な構成機器であるタービン、蒸発器、凝縮器、吸収器などにおける熱・物質の移動現象の解明と最適設計手法の確立、海洋の熱流体環境の解明、水素関連技術の構築など</p> <p><大学院工学系研究科>：リモートセンシングによる海洋環境の計測及び解析手法の確立、リチウム電池の開発、リチウムの回収・分離など</p> <p><大学院連合農学研究科>：海洋エネルギー利用における海水の生命科学的及び栄養薬理的有用性の解明など</p> <p><経済学部>：海洋エネルギー利用の法学的・社会学的問題など</p> <p><文化教育学部>：海洋エネルギーに関する一般及び専門教育、生涯教育、ネット授業による工学教育など</p>		
教育実施計画	海洋エネルギーは学際的研究分野であり、当センターを中心、大学院工学系研究科及び大学院連合農学研究科をはじめ経済学部、文化教育学部など他の部局の学生が積極的に当該分野に携わり、世界最高水準の研究環境のなかで世界をリードする人材育成が図られるように、上述の「研究推進支援委員会(仮称)」において教育関係の戦略的運用を推進していく。特に、大学院工学系研究科及び大学院連合農学研究科の修士、博士課程の学生が単なる一専門に留まらない学融合的な教育研究環境の構築を図り、トップレベルの卓越した人材育成を目指す。さらに効果的な工学教育を高度化及び高ニーズ化に対応できるネット教育の構築を目指す。		

海洋エネルギー研究センターの中核的研究拠点構想

